

令和4(2022)年度「計測会賞」を授与

計測会会長 寺倉修 (F50)

2022年度の計測会賞を授与した(写真1)。受賞者は理工学科応用物理分野を卒業された中沢正剛さん(写真2)。卒業式の日にとり行われた学位記授与式の間、2号館0232教室で賞を渡した。3月26日定刻12時40分、分野長高橋聡先生の卒業生へ贈る言葉で、学位記授与式は始まった。

計測会賞を授与する番だ。喜びと期待と不安が入り混じった門出の50名あまりの前に、卒業おめでとうもそこそこ、「皆さーん、今日から計測会の会員です。メールアドレスを登録下さい」。初の試み『計測会のしおり(写真3)』を全員に配り、「記載のQRコードを開き連絡できるメールアドレス入力を一」と、精一杯お願いした。その後、表彰状と記念品を中沢正剛さんに授与した。

計測会賞は、応用物理分野の卒業生から成績優秀な学生1名を表彰する。歴史を刻んでおり、学生の間ではブランドある賞とも漏れ聞く。これからも継続し、価値を高めたいと思う。

尚、卒業のはなむけに、2つのことばを贈った(写真4)

「これから社会へ出られる方、進学される方、ともども大切にしていきたいことばです。

まず一つは、『**答えは自ら見出す**』。今までは、答えがあり、そこにいかにしてたどり着くかという取り組みが多かったのではないのでしょうか。これから遭遇される多くは、答えが決まっていません。皆さん自身が答えを見出さねばならないのです。自ら考え、判断し、答えを決めていくのです。

「できない理由ではなく、どうしたらできるか」を「常識にとらわれすぎず」、且つ「原理・原則に則って」考え、行動してください。おのずと答がみえてくるでしょう。

答えは自ら見出す、大切にしてください。

もう一つは、「**目標は高く掲げる**」。目標は、ものづくりの目標、研究の目標、更には人生の目標など様々です。いずれも、自分の目線より、1ランク、2ランク高い目標を掲げるといふ思いを大切にしてください。

ものづくりを例にとると、自分の思いをもので表現し、お客様の笑顔を実現する。やりがいがいっぱい詰まった世界です。だが、楽ではありません。同じ汗をかくなら、日本、いや世界No.1を目指して欲しいと思います。「世界No.1を目指そう」と思うことが大切です。思えば、それがスタートラインを切ることです。

もちろん、達成できるとは限りません。しかし、そのチャレンジは、皆さん自身を成長させ、次の取り組みを成功させる原動力になります。

目標を高く掲げ、答えは自ら見出す。

ご卒業に当たっての、贈る言葉とします」

(了)



写真 1. 計測会賞を授与



写真 2. 中沢正剛さん
手には表彰状と記念品



写真 4. 2つのことばを贈った

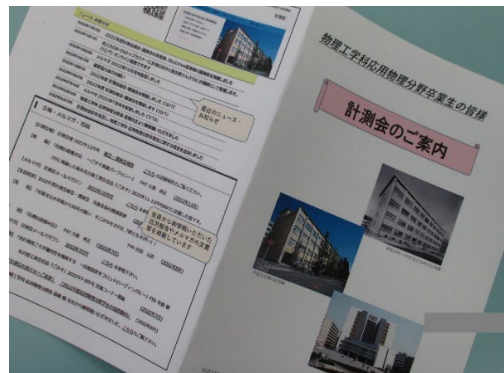


写真 3. 計測会しおり「入会の案内」